

昭和12年11月1日（月）

曇り。朝の間降雨、八時過ぎ歇む。バスにて久子と出掛く。九時五分前少時俟つ。扉開く、百余の群集雪崩を打って押入る。六七階に、エレベーターに徒歩に駈上がる。我先にと買ふこと喧嘩腰なり。余は靴下1, 20にて三足求め、二階に俟つも久子来たらず。スピーカーにて尋ね十分余にして販る。久子は二階の群集中に混じり、スピーカーの叫びなど耳に入らざりしと云ふ。余より半時間程過ぎて来る。石鹼、白木綿等を求めて居ると。夜降雨。

昭和12年11月2日（火）

曇り、次第に晴れたるも快晴となるに至らず。道子久子玉屋に行き、午後三時近く販る。澄子、寝巻の裏修復し呉る。余、二郎の銘仙袴の縁を取去り、洗張りせしむることとす。二時間費やす。薩摩煮、煮て呉る。先週中、栗原君来一泊、愛宕山を案内して、次の日午前中に販れる由。菅家原氏より菓子小包にて送付し来たり。若松小柴より菓子器一個送り越さる。午後十時寢床。

昭和12年11月3日（水）

朝より曇り、九時頃より雨。久子柳町市場へ買物に行きはみがき粉求め来る。九時サイレン鳴り遙拝をなす。ラジオは国家合唱、明治節の歌を放送す。「最敬礼」と国民一般をして遙拝せしむ。余等はサイレンと同時に東方遙拝す。降雨四時頃より歇む。気温降下寒くなる。帯、昨夜染上がり本朝乾燥す。夜理髪し貰ふ。ワイシャツ別のを準備す。去る土曜日中津より販福、当日巖より八屋局長死去の旨通知ありしを思い出すと共に、停車場寄りの銀行の建物を売却する、銀行の肚なることをも通知す。

昭和12年11月4日（木）

四時二十分起床、七時十分朝食。昨夜の松茸飯を食す。晴れ模様なるも道路悪し。バスに乗る必要なきまでに多少早く出発。乃ち朝の修養半ばにして飛出す。学生の修学旅行にて可なり混雑す。夫れでも座席に割込み得たり。風呂敷に帯を入れ持参す。中尾氏より来翰。経費も増給分を除き、繰替払い通知書到着。夫れ々支払を済まして午後五時過ぎ飯る。愛子恙（つつが）あり、巖が飯炊く。松屋、岩田屋の売出広告を示して、三人して元気良く話す。此日二十五円永江氏に渡し、木炭購入の資に供す。

昭和12年11月5日（金）

朝天気嫌悪の模様ありしも、降雨に至らず。其の俣出発せしに、朝鮮料理屋まで至りし頃、漸く降り出す。次第に急歩調にて局に至る。多少濡れたるも此の時刻より大降りとなる。後或いは歇み、或いは降る。午後より全く歇む。五時半飯宅。愛子飯焚く。余の布団は今夜に限り巖と共にとる。愛子は夜、馬鈴薯汁を食うて飯を食わず。其の為か腹加減を悪くす。割合早く寝た様子なり。余は十時に至り寝床。

昭和12年11月6日（土）

午前二時頃より降雨、次第に激し。夜明くるも歇まず。初めて長靴を穿きて出局す。此朝巖起出て飯焚く。和博早く起き、悦子も常より早く目覚む。愛子飯炊上がりて起床、可なり難義らし。道子の着物出来上がり余に托す。永江氏切手請求、午前中帰らず。0時30分頃、黒布表紙及び普通表紙求め来る。午後一時二十分長靴にて出

発。雨歇みたるらし。既に開札初まり居る。定時発車。小倉附近にて再び黒雲低く垂れ、雨脚漸く滋し、途中にて歇む。四時五十分南新町より徒歩、五時到着。おしる古出来居る。水浴の後夕餉を済ます。山崎氏より葉書、真の郷会七時より出席を乞ふ。日曜は大根地山登攀、午前八時博多駅に来著乞ふとあり。此夜遂に不参加。

昭和12年11月7日（日）

曇り、何れにも行かず。新聞を見て午後より手紙書く。駒次よりの返事認む。彼の言ふ処に依れば、三人して月給を得て居るから家計は豊かならんと。実際は生活程度向上の結果負債あり。決して岡目にて批評する如き経済状態にあらずと。金額は年賦にて返済したしと申出ず。証書には担保として田八反、畑八反歩を供すべし云々、他は皆抵当に入れある由なり。返事として今日となりては余の自由にならぬ、昌江に相談せよ、其許から昌江へ損害賠償して、手を切った上でなければ困ると謂ふて遣りぬ。法律上の権利は昌江に移行した以上、不得已、昌江に其の書面を同封して発送し、本人が支払う意思ある以上訴訟する必要はなからんと注意せり。中尾氏にも認む。本人相互の意思疎通の機会を与ふる要あり、待つ待たぬは第三者の容喙する範囲でないと思ふと注意せり。午後五時頃より降雨。十時頃郵便投函を図りしも、皆寝て傘を取出す手数もあるので外出を思止み、又山崎氏にも葉書書く好意を深謝せり。

昭和12年11月8日（月）

朝四時半起床、降雨頻り。六時猶歇まず。夜明けて次第に歇む。此日中津行きを見合わす。巖より久子に来援の

依頼状あり。久子は余と一緒にいくと云ふ。汽車賃の関係なり。土産物など整ふ。嘗て借りたる足駄と和傘を返戻せしむることとす。井尻碌氏宛返事認む。簗島局に至り、年金10、28分、11、1日分、都合九円受取る。甘藷林檎等求めしむ。積雲低く、今にも降り出でん光景にて終日持続す。襯衣昨日洗濯乾燥せず。今日可なり冷え、毛糸編み澄子製ジャケツを着用す。夕方より再び降雨。六時髯剃る。此の頃漸く雨歇む。

昭和12年11月9日（火）

夜来降雨、朝久子と一緒に出発。嘗て中津より持参の雨傘を利用。南新町まで徒歩、一足先にバスにて行きたる久子を追抜け満員の電車に乗る。駅に至りし時は猶十分を剩す。定時発車、車内余裕あり。小倉より乗換えにも同断。中津にて和傘を久子に托す。雨歇み陽射しあり。然るに二時頃より再び曇り、遂に降雨す。恰度土曜日預け置きたる洋傘ありし為、夫れを利用し五時過ぎ販る。此日駅より局に来る中間、巖に会す。多分偵察に來たりたるものと見ゆ。夜風呂沸き、曩に悦子を入れて巖の後より余入浴す。午後九時、久子寝る仕度す。

昭和12年11月10日（水）

晴れ、朝悦子を抱き裏の田畔（あぜ）を逍遙す。九時出勤。大分郡狭間村、佐藤拓一氏より父善平逝去（九日午前九時）の旨通知あり。不取敢、弔電を中津局まで行き発送し置きたり。橋本昇氏方不幸ありし旨、昨日永江氏より通知あり。本件は本月一日頃電話にて通知ありしも、不在の為め其の儘失念し、今思出したる由にて、通知ありしものなり。是に対し本日各壺円五拾錢づつ取組

む。橋本氏に此日発送。佐藤氏には貳円に変更の要ある為、此日時間外とて取組み得ず。明日に延ばす。五時に販る。可なり冷氣、一昨日より火鉢を出す。本日は日中暖かく其の要を見ざりし。悦子、久子に負われて眠り一時頃より四時まで起きず。其の為、夜は割合に眠らず、余抱きて眠らす。十時寢床。

昭和12年11月11日（木）

朝三時頃より、角力櫓太鼓鳴り景気よし。双葉山の出身地丈けに人気を煽るものの如し。雨天の為、二日間延期せりと云ふ。七時過ぎ悦子を連れ散歩、神苑に鳩を見る。八時三十分帰宅、仕度して出局。木内氏、後より自転車にて来る。途中まで一緒に行く。朝の間寒かりしも午後より陽射しあり、稍（やや）温かくなる。此朝久子販りたしと謂ふ。朝は早く夜は十時を過ぎ（久子は朝五時三十分、夜九時二十分）家に居る如き我儘は出来ぬので苦しくなりしらし。本朝、佐藤拓一氏宛貳円榊料発送す。午後四時角力終わりしか、小角力の大部分帰宿、局前往来を通過するを見る。火鉢に火を断たず。井尻碌氏より道子へ宛てたる和歌雑誌、四日到着と認めらるるもの、本日福岡に廻送せり。午後五時前販宅。家の中は冷ゆるも戸外は暖かし。十時より独伊と防共協定の締結に依り一層の強化を見たる。対コミンテルンルートに対し伊太利との間に交誼密なるものあり。今夜同時刻を期し両国間国際放送あり。支那飛行機三台、上海南方呉淞沖海上に於いて、日本飛行機との間に激烈の争闘あり。敵機二台を撃墜し一台を撃攘（げきじょう）せる由。非常警報、西部防衛地区司令よりの報により、市民一般警戒せしも午後五時解除さる。余の室に長大鉢を配置す。併し此夜は、さ程

寒からず。久子九時頃より床を展べ、早く寝む。

昭和12年11月12日（金）

朝より晴れ曇り、半ばす。悦子を連れ龍王に至り、海老選りを見る。八時五十分仕度して出発す。昨日は余り早く出勤、守谷さんより早かりし。今日は九時十分頃出勤。気温昨日より温かし。十時頃より快晴となる、珍しき日和。陽当たりよき家は春の如き暖かさならんも、局内は差程にも感ぜざりし。四時半頃退局。悦子を連れ墓地附近を散策、食後も守りす。風呂沸き入浴。九時久子布団を敷き床に入る。余九時三十分ニュースを聞き、十時寝床。両児比較的早く眠る、入浴の勢もあらん。

昭和12年11月13日（土）

朝より曇り。例により朝食後、散歩守りす。此朝、愛子福岡行きを希望す。久子が勧めたる如し。余の回数券を当てにする如し。夫れも久子の意見らし。久子余に対し姉さんを連れて行くのかと質す。恰も余の意思なるが如く装うこと可笑。午後一時、愛子等局前に見ゆ。二十分出発、愛子切符を買ふ。之を返戻したるに拾銭差引かる。定時発車。南新町より徒歩、五時十分頃着。猶出発の際、電報通知す。天プラなどして待居れり。光の友会より葉書あり。明十四日朝六時半より早天托鉢、水鏡天満宮境内、夜七時三十分より座談会、上浜口、島井安之助邸とあり。愛子の為、階段下の二畳を寝室とす。早く寝床。余は十時頃寝に就く。快晴。

昭和12年11月14日（日）

午前四時三十分起床、六時前十分出発。新柳町より電車、

県庁前下車。桑原氏松尾氏既に見ゆ。余は定刻六時三十分より着手、七時二十分終了。神前に整列し柳原先生の音頭にて祝詞（のりと）を奏上し、七時三十分帰途に就く。九時過ぎ道、久、愛子を伴いデパート見物に行き、午後三時半を過ぐ。其の間、上田谷地及び佐世保へ手紙書く。中尾貢氏より書面あり、現在の自分は境地開拓に邁進、他に心に移す余裕なし、妻帯など思ひも寄らずとあり。寧（むし）ろ頼母しく思わる。午後六時四十分発、上浜口町島井氏宅を訪ぬ。同氏は印刷業を営み居る。珍らしく松居氏来会、柳原先生も見ゆ。今朝は先生夫人も見えたり。天香先生白日に語る本中より感じたるもの抜出して読む。桑原氏の感話あり。十時近くなりぬ。島井氏より、会長を柳原氏に願いたしと申出らる。余、直に賛し松居氏同意。之を柳原氏に量るに、代行的にて可ならんとあり。多少曲折ありて其の儘となる。十一時帰宅。快晴。

昭和12年11月15日（月）

快晴。九時五十分、愛子を連れ七五三宮詣りに、住吉神社及び箱崎八幡宮に賽（さい）す。献饌（けんせん）修祓祝詞奏上あり。神酒及び紅白菓子を頂き、十一時過ぎ動植物園を見、公園内にて昼飯を喫す。能登？煎餅17、パン20、蒲鉾5求む。猶出発の際、簗島局にて昨日預かりし会費を貯金す。今日デパート休業。千代町より停車場方面行き電車にて、南新町より徒歩。二時を過ぎ帰宅。悦子電車内にて眠る。今日は遠（さす）がに宮詣りの子供多し。男子の和服は次第に衰ひ、将校服の方、軍国らしく見ゆ。夜悦子を連れ、久子愛子風呂に行きしも、セルロイド製白鳥を浮かべ、夫れにだまされて平素

泣く児も遂に泣かざりしと。余は九時前寢床。昨、余の光友会に出席する為、家を出たると同時に妙子が入り来る。後にて聞けば、愛子に何か土産物を持参せし由なり。家にも挿花を持参。床の仏前、其の他に飾る。

昭和12年11月16日（火）

朝の間晴れ、次第に曇り。午前中道子と愛子、百貨店に悦子を残して出掛く。一時半頃帰る。余明日出発すと申告けたる為、買物を整ふ積もりと見ゆ。夜は悦子を負うて、和博を寝かして出発。バス三区、寿通りを一巡、中島町橋口町を経、電車一区にて八時十五分帰れば、道、澄風呂に行き不在。ラジオ点火せず、相談所に葉書出す。時計腕巻き見て貰ひ、無料にて直し呉る。此日、徳重君来訪、一時間、四方山の話をして帰る。恰度手紙書きの途中、同氏は勤務中立寄りしものにて、余の駅前に就職を知らざりしもの。年金奨励専む。三時四十分頃眠る。

昭和12年11月17日（水）

晴れ、暖かなり。小春日和の麗（うらら）かさ。七時半仕度し、同四十五分出発。荷物多し、駅に着けば猶七八分を剰す。改札始まる時とて焦らず苛たず、途中も無事。トランク余預かり帰宅の際持参。出局すれば、昇給原資510到着しあり。愛子より旅費2,70受取る。82銭廉（やす）し。五時過ぎ巖、猶不来。六時待たず夕餉を認む時、飯来る。十一時まで話す。木下君より横町氏の午餐会2,50遣す。是を返戻すべく手紙書き、明朝切手請求の永江氏に話すこととす。

昭和12年11月18日（木）

曇り。ラジオは曇り時に降雨を報ず、和傘持参す。十時過ぎ一時陽光を見る。午後よりは曇りなるも、時々陽射しあり。測候の予報を裏切り、遂に雨に至らず。五時二十分退局。巖販宅し居る。悦子に夕食を与ひ夕餉を済まして、十時近くまで新聞を見る。豊後町局員臨局。国債500円、一枚二十五円二枚の売捌き方依頼あり。当局は昨朝にて売り竭（つく）したる後も、希望者の来求多し。木下君より送付の金員、返戻せり。巖より来日曜、耶馬溪行きを企て、余の同行を慫慂す。

昭和12年11月19日（金）

曇り、西北風強し。陽の照ることもあり。三共よりストーブ到来の旨申越す。梅村富造氏、監察係を命ぜられたる旨通知あり。返信認む。午後五時、販るさ三共に立寄る。無烟炭用ストーブ8、30及び無烟炭百斤1、40、計九円七拾錢支払う。明朝持参の筈。巖既に販り居る。間もなく夕食、猶可なり寒し。子供等早く寢床。橋本昇氏より返書礼状到着。兄死去、遺児四、長女十二、次女拾、三女七、長男二才あり。十月二十九日午前七時の出来事なりしに、其の夜母堂卒倒、三十日朝八時他界。一時に二名の葬儀を営み茫然自失したる由。詢（まこと）に気の毒とも何とも謂ひようなし。一朝にして、肉親一人も残らぬ惨事を呈せし同氏の悲嘆思ひやらる。十時寢床。

昭和12年11月20日（土）

朝、少雨。出局時は霽れ居たり。七時半次第に小降りとなる。雨を庇（かば）ふようにして龍王神社に至り、船より引揚る海老の大獵を見て販る。朝九時出発、島原先

生途中に待居らる。昨日も帰るさ同氏の後を追うて逋信
医問題で色々話がはずみ、余の家の近所まで来らる。十
時ストーブ持参。台、調製のこととす。午後一時二十分
出発、是永さん停車場まで鞆を持来る。七八分遅る。石
丸医、門司まで行くとて先方より挨拶さる。五時帰著、間
もなく夕食。山崎氏より今夜柳原先生宅にて真の郷会、
参列あれとあり。七時よりとありしも到着せしは七時半な
りし。山崎氏、松尾氏、福永氏、志波氏、桑原氏、後よ
り安藤氏も来会。田北氏、長崎神学校より九大佐野博士
指導、切支丹の研究に勗（つと）められ居る由。光友会
が真郷会に合同、今日の催しとなり、田北氏より話を聴く
積もりらし。余の行きし時は御勤めが過ぎ、愈々開会の
挨拶が始まる際なりし。柳原先生より挨拶、次いで田北
氏、神学校と一燭園との題にて一時間半講話。来会者よ
り質問あり。戦争と宗教と扞格（かんかく）矛盾なきやと
の質問あり。柳原氏答弁、詢に要領良く柔和の姿にて答
弁さる。十一時近く退出す。帰宅十一時半、寢床十二時。
田北氏、佐野博士邸に泊まる。余新柳町より徒歩。

昭和12年11月21日（日）

雨降る、少時後曇り。山崎氏来邸。恰度駒次より柿一箱
来る、之を山崎氏に出す。一時間以上色々話し、天拝山
に登攀方種々の意見あり。此日駒次より柿贈恵さる。夜
返書認め、久子に齒磨粉14、亀の子たわし8、軍手12を
求めさす。林檎10も余出金す。時々驟雨あり。納税二円
済ます。昨志波氏より会費50銭、本日久子に貯金せしむ。
火鉢昨日より貰ふ、夜は寒し。松原氏四時過ぎ来邸、道
子の問題及び駒次の問題、打豆供給の件等色々話あり。
五時四十分まで酒肴を出す。

昭和12年11月22日（月）

日中時々降雨。久子に貯金云々、此日の誤り。道子昨朝より風邪の気味にて休養、熱がない丈けに食欲あり。可なり寒し。橋本昇氏より昨、忌明け小包到来に付き、駒次と共に手紙認む。割合早く寢床。向家に柿少々贈る。皆から喜ばる。火鉢を貰ふ。股藏に置くとき、睡魔に襲われ何も出来ぬ。暖まれば取去ることにせり。誰も来訪者なし。

昭和12年11月23日（火）

新嘗祭。朝の間、時々晴れ。天拝山に登る約束なりしが、中止せり。午後二時頃より次第に陰悪化し、遂に降雨す。澄子に理髪し貰ふ。外出せず。髯剃りす。寒し、火鉢を用ゆ。十時寢床。柿を喰う。澄、久風呂行き。

昭和12年11月24日（水）

四時半起床当時降雨、夜明けてより歇む。七時四十五分出発、バスに乗り十分を剩す。中尾氏宛郵便投函。新聞を求めたり、定時発著。二十三日耶馬溪倶楽部にて、局長会開催通知二十二日に到着、永江氏臨席せざりし由。部長よりの通知を見ざりしやも知れず。当地は雨降らず。曇天の俛、持続す。午後五時飯途に就く。巖、大貞の競馬に行く。馬券を求め損をせし由。良き試練を得たるものと寧ろ祝福せり。中尾氏より来翰、余に上京を促す。競馬に行く為、稲荷鮎、海苔巻き等の外煮物まで作りあり。鮎馳走になる。巖遅れて帰る。十一時寢床。入浴す。

昭和12年11月25日（木）

曇り、風強く時々陽の射すことあり。田の中にて粃を造る。九時三十分出局、後藤補臨局。余ジャケツ着、今朝、可なり寒し。狭間局佐藤氏未亡人、郁子氏より来翰及び小包到着。午後四時半帰る。巖庭の風に倒れ伏せし松の樹を起こし植え、是れが気にかかり居りしこととて安堵せり。松樹も本来の姿に皈り満足せしやらん。而も倒れし一方は枯れたる枝多し、土に觸接せし方面と覚ゆ。序でに掃き浄めたるを嬉しかりし。悦子負うて守りす。余の部屋を押入を利用し得ることになり、此日より布団を仕舞ふ。長火鉢も出し呉る。愛子毛糸編み始む。巖早く休む、余十時寢床。防共協定一周年記念に際し、日独交驩放送あり。伯林（ベルリン）より完全に聴き取らせられたり。

昭和12年11月26日（金）

朝寒し。悦子に朝食を遣り便所を済まして、ネンネコに包んで神社附近を一巡す。曇天。陽は時々射すも、予報と反し暖かくならざりし。十一月分経費到着分配す。それで家賃も済ます。五時帰途、蛭子橋の先、鷹匠町附近通過の際、電配自転車にて通過、余を認め電報を渡す。「アスオコシマツオオハラ」とあり。帰りて巖に明日返信を発送せしむ。「サシツカエアリユケヌ」。此夜10円、例により食費支払ふ。電波料を遣る。風呂沸く。十時寢床。午後晴天。

昭和12年11月27日（土）

朝悦子を負うて散歩す。海老を乾かし居る家多し。晴れ。家を出ると間もなく梨を売りに見ゆ。腐敗のもの、一貫目20銭を求めて家に差措きたり。十一時松本国雄氏来、

門司局在勤を命ぜられ書記に昇進の由。三十日単独出発すと云ふ。軍事郵便課に所属すと。午後一時永江氏よりの土産、芋饅頭50銭と見らるを貰ひ携帯出発す。定時より多少遅れて到着。南新町より徒歩帰着。澄子元永氏の許に遊びに行き、夕食中飯る。鰯の天ぷらなど久子によりて造らる。此日晴天、暖かし。ラジオを聞き、十時寢床。道子風邪治らず、十余日に及ぶ。

昭和12年11月28日（日）

降雨、時に歇むも陰鬱の天候を持続しあり。久子、秀夫宅に行く。西津氏訪問し居れりと謂ふ。石橋氏の父死亡、会葬の為来たりし由なり。曩に駒次より柿送付越せしが、三谷よりも一箱送付あり。ラジオを聞き夜に及ぶ。十時寢床。夕方より曇天、可なり寒し。

昭和12年11月29日（月）

曇り、時に晴れ。午前中、久子山本先生に柿を持行く。午後0時久子連れ先ず郵便局に至り、道子の保険料を支払うべく40円払戻し、更に天神町興業銀行に東北電力増額第二回払込み百二十五円納付、次いで松屋に至り、道子の注文せしと云ふコートを受取りに行く。今晚八時まで出来る由。柳町市場にて鮮魚34、菓子50（これは永江氏に持行くもの）其の他、松屋よりビスケット15、パン20等求め、三時帰宅。

昭和12年11月30日（火）

朝の間僅かに晴れ、次第に曇り。十時過ぎ局に行き松本国雄氏宛祝電を発送す。其の前に松屋に行き、昨夜八時迄に出来上がると謂ったコートを受取らんとす。久子より

家を出る時渡された其の受取を、途中で失いし如し。大いに慌て再び搜索す。発見す。然るに未だ出来ぬと云ふ。午後配達を約し、玉屋に火鉢を買わんとす。為念、松屋家具部を見廻すに同一品物あり。小一個一円にて求め、配達を依頼す。午後三時上堅町正定寺にて、二十八日午前四時三十分永眠の松居甚市朗氏の告別式に臨む。式円香奠に持参す。紋附袴にて出発、焼香を終えて販り、玉屋に寄り四階家具部に例の火鉢を見る。七拾錢以内にて求めらる。驚き帰りて松屋に警告す。此の朝桑原氏来。松居氏逝去に付き、余不在なら電報せんと思ふて相談しに来たりし旨申さる。柳原先生に弔辞を朗読方相談に行かる。今思うに焼香丈けして立販りしは非礼なりしと気付きたり。明日出発の準備したるも時間の余裕なく今後に延伸したるもの多し。夜鮮魚飯。林檎は猶三ヶを剩せり。